

2021（令和3）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 福祉国家の対象から排除された人々の自助グループには、医療機関内や身内とは別の、相互的な生の社会性があるということ。

（参 考）

以下の「解答例」は、「朝日新聞デジタル」（2021年8月12日付，18面

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15007722.html>）に記載された、本文の筆者である松嶋健氏自身によるものである。

治療者と患者という一元的な関係でも、もともと近い家族との関係でもなく、H I V感染者・エイズ患者は お互い見知らぬ間柄だったにもかかわらず、苦しみを軽減し問題を解決するために世話をしたり知や実践を共有したりすることで、非感染者も含めた独自の関係性が生まれていったということ。

*筆者自身は、上記の内容を考えて、自著で傍線部（ア）のように表現したことになる。

もちろんこのままでは文字数は約 130 字に至り、解答欄五行は要してしまうが、今は措く。それよりも、傍線部のママ、もしくは、具体例のママの使用、さらに構文上の不適切さ、冗長な表現など、この解答例では合格答案とまでは言えまい。したがって、東大の要求する「合格答案」とは、上記の「筆者自身の考え」とほとんど同じ内容を、より簡潔かつ的確な表現でまとめた解答であるということになる。

*この事例によっても、「本文内容が本質的に読めていたら、問題は解ける」などと軽々しく言えないことは明らかである。

- 二 公的医療に、国家の管理と統治の論理とは異なる、苦しむ人々を地域で支える共同的で公共的な論理が現れたということ。

*イタリアの精神障害者に関する具体例について書くのではなく、本論・一般論の内容を解答すること。

- 三 顧客が欲望に従い、商品やサービスを主体的に選ぶという考え方は、個人の孤独な自己責任と欲望の自覚に拠るということ。

*「選択の論理」「個人主義」の二項は、とくに現代の医療に影響を与えているものとはいえず、医療に限った概念ではない。したがって、「医療」「患者」を解答に用いない。

四 個人や社会を基盤とする福祉国家の公的サービスでは、対象から排除された人々が常に存在する。他方、ケアは、苦しむ人々に必要なことを適切に判断し、身体を世話し調えるためのすべてから成る共同的で協働的な作業であり、共に生きる社会性を示すということ。(一二〇字)

五 a 診察 b 諦 c 羅針